

クラブ活動

放課後は、一般クラス同様クラブ活動にも参加することができます。信頼する先生と仲間とに囲まれ、目標に向かって努力することができるかけがいのない時間です。楽しいこと、つらいこと、充実感、達成感を持てる部活動が充実しています。



先輩からのメッセージ



私がこのコースに入ったのは、一般入試で大学に合格できるよう自分を追い込むためでしたが、日を重ねていくうちに、全員が積極的に取り組もうとしているので、毎日の勉強が楽しく、自分を厳しい状況に立たせずとも勉強しようという気になります。授業は7時間ありますが、部活動ができないわけではなく、逆に少し遅れてしまう分、前よりも熱心に取り組めるようになりました。

Student's message
高1 溝口 淑子さん

PLコースに入る前は、毎日7時間授業があると聞いてとても不安でしたが、実際生活してみると時間が過ぎるのが早く、それほど苦になりませんでした。他中学から入学した私に対しても皆が優しく接してくれて、今では授業が終わってもまだ一緒にいたいと思うほど、仲良くなりました。勉強面でも、皆が積極的に取り組んでいるので、私も自然にできる空気があり、とても充実しています。

Student's message
高1 井上 奈美さん

PLでは、皆が授業に集中しているのので、自分も集中して取り組むことができます。また、それぞれ自分の考えを持っているので、一つの課題に対してお互いに意見を出し合い、その中で新しい考えにたどりつくことができます。このコースに入って本当によかったと思っています。

Student's message
高2 福田 俊一郎くん

私は当初、「部活動と勉強の両立はできるか」という不安を抱いていました。しかし、今ではその不安がなくなり、とても楽しく学校生活を送っています。勉強も個別で教えてもらえるので、曖昧に理解していた部分もなくなり、部活動も参加できる時間が限られているので、以前より集中して取り組めるようになりました。

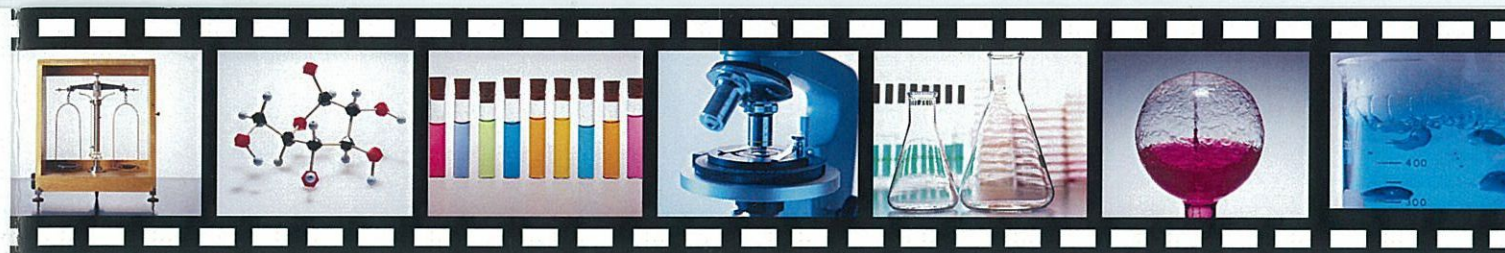
Student's message
高2 米村 茉優さん

私は絶対文系だと思っていたのですが、科学未来館などの施設訪問やSSHの授業などで理数系の教科にも興味を持つようになりました。また、研修旅行やtap*を通して、お互いを高め合うことのできる仲間ができ、勉強は確かに大変ですが、毎日の学校生活がとても充実していて楽しいです。

Student's message
高2 佐藤 友美さん



〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
TEL : 042-739-8931 (学園入試広報課) <http://www.tamagawa.ed.jp>



Tamagawa Academy Proactive Learning Course 2016



時代と共に変化する社会。その変化は私たちにさまざまな能力・知識を要求してきます。変化に対応し、現代社会をリードする知識・能力をもった人材育成のために、玉川学園は最新鋭の施設・設備の充実を図り、洗練された教育プログラムの開発を行ってきました。

プロアクティブとは「率先して行動する」「一歩先を見越して行動する」「次のことを考えて、事前に準備する」という意味です。いろいろなことに興味・関心を持ち、自ら探究したい人に最適なコースです。

大学入試のみならず、大学卒業後も生きる本物の学力を育成します。

玉川学園 プロアクティブラーニングコース コース案内





先生からのメッセージ

経験豊富な教員が、一人ひとりの夢をきめ細かにサポートします。確固たる人格形成に導きます。



Teacher's message
国語 後藤 芳文 教諭

言葉は世界を認識するときの窓です。この窓を通してしか世界を見ることはできません。これからみなさんは多くの抽象的な言葉や概念を学びますが、これは抽象的な視点で世界を切り取り、認識する仕方を学ぶということなのです。この習得のために、教材となる文章の論理や思考を丹念に辿ったり、発表や討論や小論文などの学習活動に取り組んだりします。また、古典を学ぶことで日本文化の独自性を学び、自分が依って立つ土台を確認しつつ、その日本文化という窓自体についても批判的な検討を加え、国際社会に通用するような偏見や先入観に囚われない物の見方ができることを目指します。



Teacher's message
英語 高橋 さやか 教諭

外国語を学ぶということは、その言語に固有の思考方法、文化を学ぶことでもあります。英語は日本語と大きく異なる言語構造を持っています。英語を学習することを通して、英語の発想そのものを学び、複眼的な思考を身につけることができるのです。高校生になると、教科書の英文も学術的な題材が多くなり、内容も難しくなります。

日本語と異なる文法体系を学び、言葉の正しい定義を理解しながら、意識的に英語に向き合えないと正確に英文を理解することはできません。異なる価値体系を持つ文化圏の他者と向き合うために、実際に言語を運用する力とともに、言語の背景にある哲学、文化の理解にも目を向けます。



Teacher's message
数学 清水 雅文 教諭

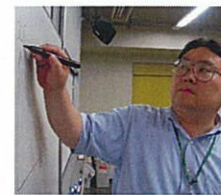
本コースでは、「定義から論理的に組立てられるか」ということを重視し、指導しています。定義を言葉やイメージでとらえ、定義から性質や定理、公式を論理的に導きます。導いた性質や定理、公式を様々な状況に応じて道具として利用し磨き上げ、改めて定義について考えることにより、定義をより深く理解させることをねらいとしています。

経験した事だからできるだけでなく、経験した事を活かし新たな状況や問題に対し考えを組立て解決する力は、社会人に求められる大切な要素だと考えます。解いた問題の類題ができるというレベルではなく、定義から考えを組立て発展させる力を養うことを目標としています。



Teacher's message
歴史 阿部 恭士 教諭

本コースでは、論理的に思考することの重要性を認識し、活用することを目的とした授業展開を常に意識しています。10年生に設置されている「歴史に学ぶ」はまさにそれを意図して考案された講座です。歴史というと暗記科目と思われがちですが、知識の集積は単なる基礎にすぎません。重要なのは、知識をいかに道具として使いこなすかということにあるのです。そのためにこの講座では、「世界史」のダイナミックなうねりの中に「日本史」を位置づけつつ歴史の全体像をとらえることにより、歴史をまさに生きるための術として活用することを目指しています。



Teacher's message
物理 吉澤 大樹 教諭

このコースの授業では、いつも「その場で考えを組立てる」ということに生徒の目を向けさせています。状況から何が必要とされているのかを理解し、磨き上げた確かな道具と部品で組立てていくこと。ここに、初めてみることにしても対処できる強さが生まれます。これは、自分で動く力であり、新しいものを生み出す力でもあります。大学が求めている力・社会で活躍するための力にも通じます。「知っている」「できる」ではつまらない。仕組みや理由が分かる楽しさ、組立てが楽しめる楽しさ。ここに遠回りに見えるけれど、実は最短コースの入口があります。



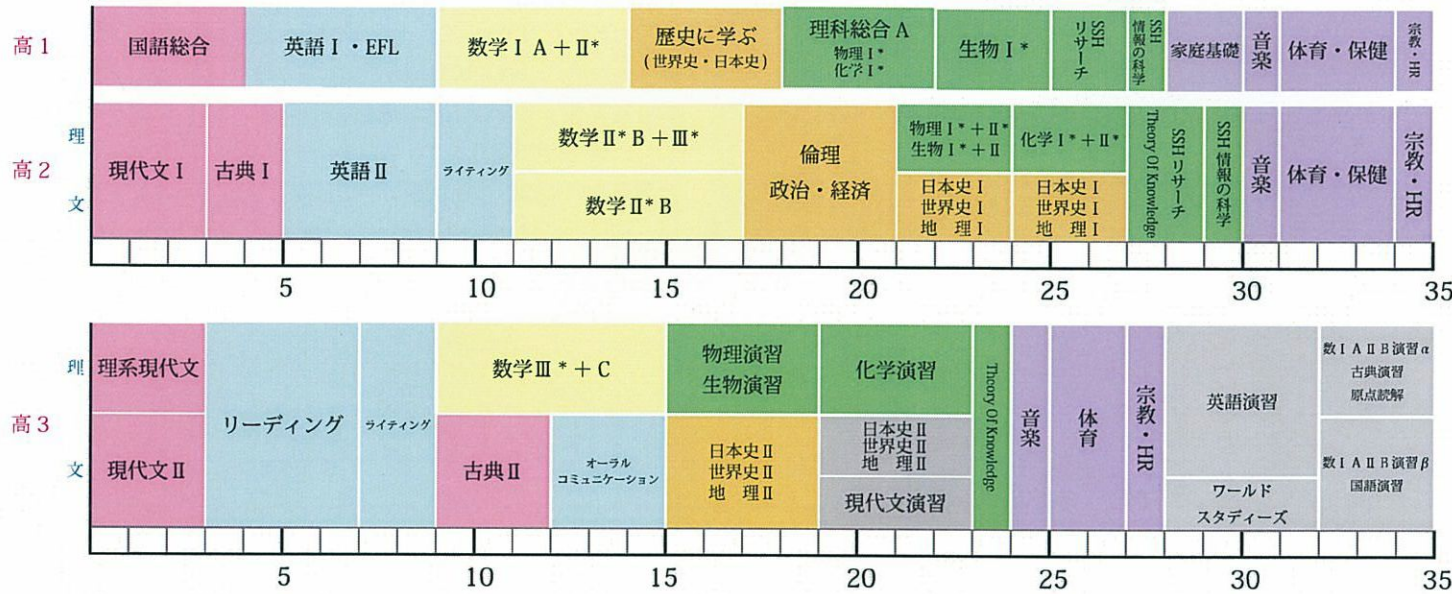
コースの特徴

プロアクティブラーニングコースでは、高1で理科を集中的に学ぶことにより、文系・理系問わず論理的思考力を養います。これをベースに、高2からより自分の志向にあった授業選択が可能になります。

授業は、教科間のつながりも大切に構成されています。IBのカリキュラムと探究型学習を交えることで、将来にわたって生きる知的バックグラウンドを形成し、興味・関心に基づいた効果的な学力定着を図ります。このコースの生徒一人ひとりにとって進路に応じたレベルの高い学習にも取り組み、大学・大学院での研究活動でも活かせる本物の学力を育てるので、無理やり勉強をやらされるのではなく、自ら進んで学ぶ姿勢が自ずと養われます。これにより、本コースの1期生は、次のステップへとつながる真の学力が身につきました。確かな学力を基に、難関大学合格を目指します。放課後や土曜日、長期休暇のフォローアップ講座も充実しています。

カリキュラム例

※変更の可能性あり *印分割履修



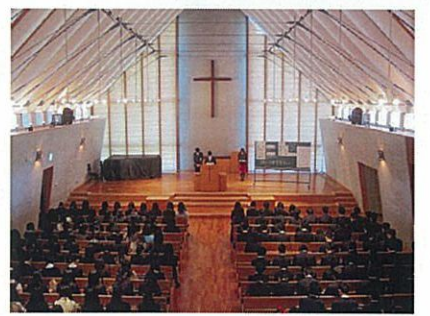
プロアクティブ ラーニング

いつの間にか偏差値 UP の秘訣

本物に触れることを大切に、探究学習を基軸に考えられたカリキュラム。一緒にがんばることが出来る友達が多いからこそ生まれる、チャレンジ精神と積極性。このコースの1期生は、気がついたら一年間で偏差値が全員十以上もアップ。緑あふれる丘に建つ玉川学園だからこそできる教育がここにありま。

「人」をつくる教育

学問の理想は真であり、道徳の理想は善であり、芸術の理想は美であり、宗教の理想は聖であり、そして身体は健であり、生活の理想は富です。教育の内容には、人間文化の全部を盛り込まなければなりません。玉川伝統の「全人教育」です。礼拝、労作を始めとし、担任教諭を中心としてクラス全員で tap (tamagawa adventure program) に取り組むなど、プロアクティブラーニングコースでの学園生活は、体験学習を基盤として、心の豊かさを養います。



文系も理系もなく
論理的思考を身につける



文系の学習にも理系の学習にも必要なのは、論理的思考力。根拠をもとに、一貫した筋道で物事を考えることは、これからの時代に必須のスキルです。

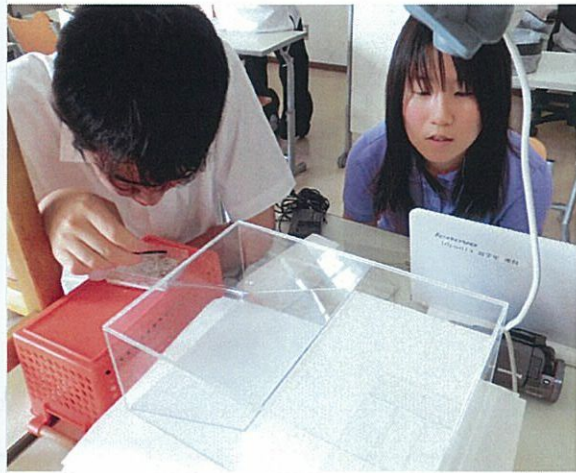
この論理的思考力を身につけるためのベースとなるのが、SSHのプログラム。いろいろなことに興味・関心を持ち、自ら探究したいと思う気持ちを持ち続け、大学卒業後も真価を発揮できる本物の人間力を育成します。

このため、本コースでは、通常高2で履修する理科



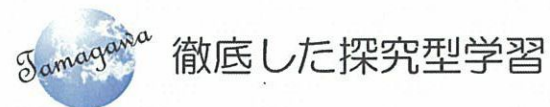
の科目を高1で先取り学習。さらに、このコースの大きな特徴である探究型学習で、論理的思考力を鍛えます。SSH全国生徒発表会では、先行文献でも説明されていない、蟻はどのようなメカニズムで最短距離を見つけ、行列をつくるのか、そのメカニズムを解明するための研究を発表しました。

この探究型学習を支えるのが、高度な装置と玉川大学の学部や各研究所です。生徒は研究所のスタッフから直接指導を受け、より本格的な課題研究に取り組みます。昨年度は脳科学研究所の協力を得て「チョコレートの成分は脳を活性化させるか？」というテーマで課題研究を行いました。同一キャンパスに点在する7学部、13の研究センターがあるからこそ、世界の最先端の知見からのサポートの下、将来の国際的な活躍への夢が育まれます。



世界をフィールドとした本物の体験から、確かな学力、そして未来へ

21世紀型学習スキル
クリティカルシンキングの育成

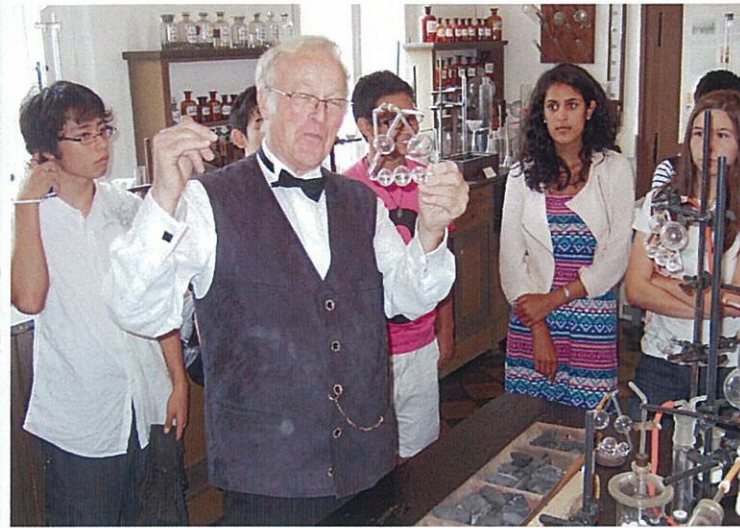
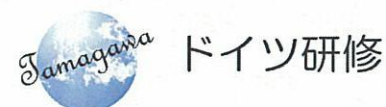


創立当時から世界を視野に入れた教育を展開してきた玉川学園。現在では、世界を舞台に活躍できる人材を育成する組織として世界的に注目を集めている国際バカロレア機構より、IB MYP・DPスクールとして認定されています。PLコースでは、この国際標準のハイレベルな教育プログラムであるIB (International Baccalaureate) の手法を導入し、教科間のつながりを大切に授業を構成。「知の理論」は、普段疑問を持っていることについて一人ひとりが調べ、結論を出していく教科横断型の授業です。インターネットや書物では足りない資料の収集、情報の信ぴょう性の検討、友達や先生と何度も議論。これらからさらに課題が広がります。

教科書の中に留まらない将来にわたって生きる知的バックグラウンドを形成します。



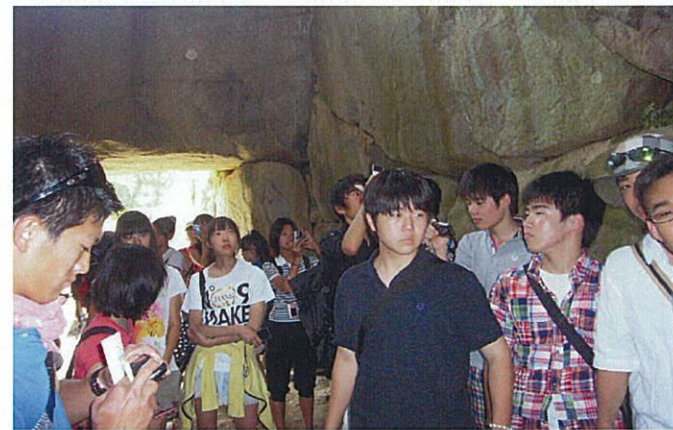
大学に隣接するからこそ
本質に触れられる



ドイツ研修では、提携校であるゲーテ・ギムナジウム校を中心に、ミュンヘン工科大学や国立博物館などで研修を行うと同時に、ドイツの高校生や研究者との交流で、多くの人々と議論する機会に恵まれました。

特に英語でのディスカッションは、生徒に衝撃を与えました。原子力発電について賛成派と反対派に分かれての討論会。積極的に発言するドイツの生徒を目の当たりにし、「グローバル化していく社会の中で、プレゼンテーション能力に長けた欧米人と肩を並べて何かするとき、今のままでは日本人は絶対勝てない。これからは、自分も積極的に発信していきたい。」と宣言する生徒がいました。

歴史を自分の肌で感じる
フィールドワーク



「歴史に学ぶ」の授業で飛鳥・奈良時代を学習したあとは、実際に奈良にフィールドワークへ。箸墓古墳の周囲を歩いて大きさを体感したり、明日香村を自転車でめぐったり、現地に赴



くことにより学習をさらに深めます。伊豆火山帯の大島では、岩石や地層を観察し、地球の成り立ちに直接触れることができました。机上の学習だけではなく、実際に自分の目と足で確かめながら学ぶことができるとともに、友達と一緒にめぐることにより記憶の定着は格段にアップし、自ずと勉強が楽しくなると生徒に好評の研修旅行です。



英語はできて当たり前
グローバル時代を生き抜く教育



世界規模の私立学校連盟「ラウンドスクエア」の国際会議に、日本で唯一のメンバー校として参加。国際社会の中で効果的なコミュニケーションができる英語教育を重視するとともに、自国のアイデンティティを育み、世界で活躍するために必要な国際性を身に付けた「真のバイリンガル」を養成しています。

英語は、コミュニケーションの一つの道具です。それを使って何をどのように発信するのかを常に考えます。



キャンパス内でも海外からの生徒をいつも見かけるなど、国際交流は日常です。